

序

神奈川県立図書館紀要は、昭和 59 年度に創刊いたしましたが、28 年を掛けて、今回ようやく第 10 号を上梓することができました。

この 28 年間で、県立の図書館、県立図書館及び県立川崎図書館は、貸出や閲覧、そしてレファレンスといった直接的な県民サービスの向上から、整備の進んできた市町村立図書館を支援することによる広域的な図書館サービスの充実へと、徐々に重心を移してまいりました。また、調査研究型の専門性の高い図書館を目指し、地域図書館としての市町村立図書館と、資料などの差別化も図ってまいりました。

しかし、厳しい財政状況、情報の電子化といった大きな流れの中で、県立の図書館の将来像は、ますます不確定な状況となってきました。こうした中で、図書館としては、常にアンテナを高く掲げて、将来像を捜し求めていかなければなりません。

一方では、県立の図書館には、貴重な資料そして知識や情報を県民に向け発信する役割が、以前にも増して求められるようになっていきます。今、図書館では、館内での展示をはじめとして、印刷物やホームページによる情報提供、そして、県民公開講座の開催などにも積極的に取り組んでいるところです。

この紀要は、司書職員が、日々の業務に関わるテーマを選択し、執筆したものでありますが、それぞれの論文は、図書館の現状や課題を分析し、将来像を模索する役割を担うと同時に、県民に向けた発信としての役割も期待されています。

また、県立の図書館の司書職員には、専門性の高い図書館、市町村立図書館を支援する図書館として、高い能力とスキルが求められておりますが、こうした執筆は、日々の業務や研修では得られない効果が期待でき、資質の向上に繋がると感じております。さらに、図書館の活動や資料を、調査研究し、文章として表現、記録し、それを保存、発信するということは、文字・活字文化を自

ら実践、体感する機会ともなりますので、多くの司書職員による執筆が期待されます。

今号は、県立の図書館の所蔵資料に係る論文が多いことが特徴となっております。司書職員の自己研鑽としての面もあり、内容的には未熟なところもありますが、県立の図書館関係各位におかれましては、是非ご一読いただき、参考にしていただければ幸いです。併せて、県立の図書館に対するご指導、ご支援もいただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

平成 25 年 2 月

神奈川県立図書館長 平野 達夫